

## ダム工学会 ICOLD2012 京都大会参加報告

### 1. はじめに

国際大ダム会議（International Commission on Large Dams, 以下 ICOLD という）の「第 80 回年次例会および第 24 回大会」が、2012 年 6 月 2 日（土）～6 月 8 日（金）の 7 日間にわたり、日本を代表する文化都市、京都の京都国際会館をメイン会場として開催された。

ICOLD は 1928 年に設立された非政府組織で、現在 95 カ国が加盟している。年次例会は、加盟国の代表者の参加による総会、技術委員会、国際シンポジウム等のプログラムにより毎年、加盟各国において開催されており、今回で 80 回目となる。また大会は、ICOLD が指定したダムに関する課題に対して集中的に討議を行う場として、3 年に 1 度開催されている。日本では年次例会は 1981 年に開催されたことがあるが、総会の開催は初めてである。

ダムに関する最大の国際会議が日本で開催されるということで、ダム工学会としても日本のダムやダム技術の紹介及びダム工学会の活動を世界に発信するため ICOLD2012 京都大会に参加することを決定し、以下のような形で参加した。

- ① with Dam Night in Kyoto の開催
- ② 国際シンポジウム「変化する世界に対応するダム」への参加
- ③ 技術展示会におけるダム工学会ブースの設営と運営
- ④ 技術展示会会場でのプレゼンテーション

これらの活動報告を以下に記す。

### 1. with Dam Night in Kyoto の開催

with Dam Night in Kyoto については、すでにダム工学会活性化推進小委員会近畿・中部ブロック幹事会の開催報告がダム工学会 HP に掲載されているので、ここでは開催内容の報告は割愛する。4 回のトークショーをたくさんの方がみられて、会場の雰囲気も盛り上がり大成功であった。

## 2. 国際シンポジウム「変化する世界に対応するダム」への参加

国際シンポジウムは、6月5日に開催された。朝8時半からメインホールで開会式が行われた（写真-1）。開会式では中北英一教授（京都大学防災研究所）により基調講演がなされ、引き続き5会場において平行して論文の発表討議が行われた。会議日程の短縮のため総会と同一日に1日での開催となった。



<写真-1> 中北英一教授による基調講演の様子

今回のシンポジウムは、「Dams for Changing World -Need for Knowledge Transfer across the Generation & the World (変化する世界に対応するダム～世代と地域を超えた技術移転の必要性について)」をメインテーマとして、以下のテーマ毎に発表討議が行われた。

- (1) Impacts of Climate Change on Dams and the Benefits from Dams  
(気候変動のダムへの影響とダムによる効果)
- (2) Dams for Meeting Increasing Demand of Growing World Population  
(世界の人口増加に対して高まるダムの必要性)
- (3) Knowledge & Technology Transfer in Dam Engineering (ダム技術の移転)
- (4) Advanced Technologies for Construction of Dams  
(ダム建設における先進技術)
- (5) New Technologies to Prevent and Manage Incidents & Accidents  
(事故の防止と管理における新技術)
- (6) Earthquakes (地震)
- (7) Geological Aspects of Dam Foundations (ダム基礎の地質)

採択された論文は 251 編であり、そのうち 120 編が口頭発表にエントリーされ論文集に掲載された。また、口頭発表できなかった残りの 131 編にはポスターセッションの機会が与えられるとともに CD に収録された。

ダム工学会からは、下記の 4 編の論文を応募し、3 編が口頭発表、1 編がポスターセッションであった。

① Survey and Research Activities and Publicity Work of the Japan Society of Dam Engineers (日本ダム工学会の調査研究活動と広報事業) (テーマ(3) 口頭発表)

本庄正史 ダム工学会会長、(株)大林組副社長

田中忠次 ダム工学会副会長、企画運営委員会委員長

(財)地域環境資源センター理事長

森秀人 ダム工学会理事、企画運営委員会活性化推進小委員会委員長

(株)建設技術研究所次長

池田隆 ダム工学会企画運営委員会副委員長

(財)ダム技術センター企画部長

② Effect of the 2011 Tohoku Earthquakes on Dams

(2011 東北地方太平洋沖地震のダムへの影響) (テーマ(6) 口頭発表)

松本徳久 (財)ダム技術センター

佐々木隆 (財)ダム技術センター

佐藤信光 (独)水資源機構総合研究センター

③ Manual of Geological Boring and Engineering Investigation of Dam Geology for Next- Generation Dam Engineers

(次世代のダム技術者のために編集したボーリング調査と岩盤評価技術についての解説書) (テーマ(7) 口頭発表)

平野勇 応用地質(株)、ダム工学会調査研究員会地質・基礎研究部会長

宇津木慎司 (株)間組

阪本恵一郎 (独)水資源機構

④ Optimizing Placing Speed of Concrete at Concrete Gravity Dams

(重力式コンクリートダムにおける打設速度の最適化) (テーマ(4)ポスターセッション)

入江洋樹 ダム工学会顧問

岡本政明 ダム工学会調査研究委員会委員長、(株)ニュージェック技師長

佐野憲次 ダム工学会調査研究委員会前委員長、(株)クリアリア顧問

大藪勝美 ダム工学会調査研究委員会施工研究部会前部会長

(財)ダム技術センター技師長役

①は、企画運営委員会が、ダム工学会の組織、調査研究活動、広報活動について紹介したものである。

②は、ダム工学災害調査委員会が実施した、昨年3月の東北地方太平洋沖地震のダムの被害に関する現地調査を踏まえた、地震のダムに対する影響をまとめたものである。

③は、調査研究委員会地質・基礎研究部会が編集し、まもなく出版されるダム工学会の図書「総説 岩盤の地質調査と評価」を紹介したものである。

④は、調査研究委員会施工研究部会が平成21年度にまとめた部会報告を論文として提出したものである。



<写真-2> シンポジウムでプレゼンテーションを行う池田企画運営委員会副委員長



<写真-3> シンポジウムでプレゼンテーションを行う地質基礎研究部会宇津木氏

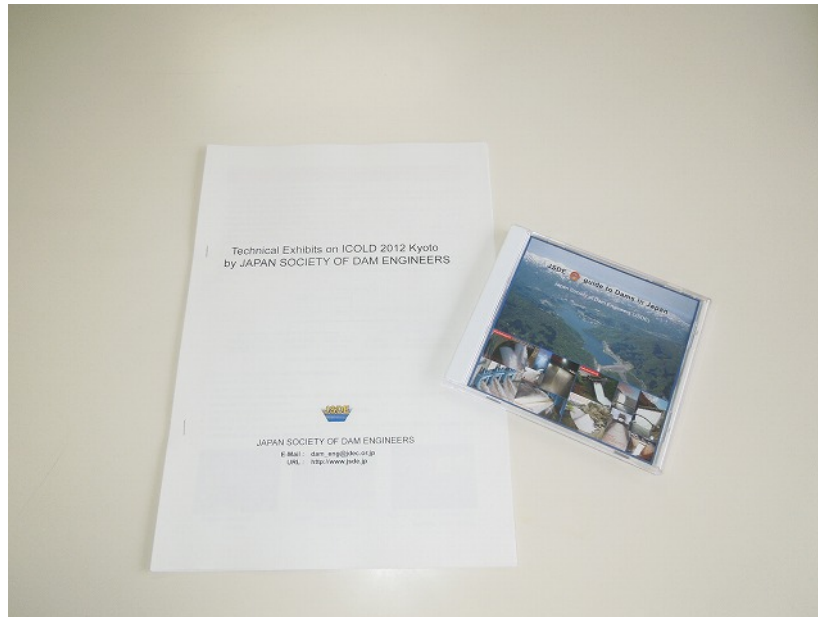
### 3. 技術展示会におけるダム工学会ブースの設営と運営

ICOLD2012 京都大会の会場となった京都国際会館展示ホールで、8月5日から8日まで開催された技術展示会に、ダム工学会は東北地方太平洋沖地震によるダムの被害の報告と、企画運営委員会活性化推進小員会がダム工学会20周年記念事業で作成したダム大研究 e-図鑑の英語版の紹介を行った。展示ブースは3m四方の小さなスペースであったが、地震によるダムの被害を紹介するパネル6枚とダム大研究 e-図鑑のコンテンツを紹介するモニターとパネル、国土交通省東北地方整備局が製作した地震直後の津波が押し寄せる状況等を紹介する映像を上映するモニターを設置し、ダム大研究 e-図鑑のCD-ROM、地震被害を紹介するパネルのコピーとその参考資料を入れたパンフレットの配布を行った。(写真-3,4) 展示期間中はダム工学会会員が交替でブースに立って説明を担当した。なお、ダムの地震被害を紹介するパネルと地震被害を紹介するパンフレットの製作には、東京電力と電源開発(株)から特段の協力を得た。

**※パンフレットの中身はこちらを参照**



<写真-4>ダム工学会の展示ブース



<写真-5> 配布したダム大研究 e-図鑑と地震被害を紹介するパンフレット

#### 4. 技術展示会会場でのプレゼンテーション

技術展示会会場では、特設ステージで展示ブースを出した組織のプレゼンテーションが行われた。ダム工学会は、展示最終日の6月8日、ダム大研究 e-図鑑について、企画運営委員会活性化推進小委員会委員で東京大学工学系研究科の千々和先生がプレゼンテーションを行った。（写真-5）千々和先生は、パワーポイントを使ってダム大研究 e-図鑑（英語版）の内容について英語でわかりやすく説明した。また、プレゼンテーションを聴いている聴衆の方にはダム大研究 e-図鑑の CD-ROM の配布を行った。



<写真-6> プレゼンテーションを行う千々和先生